

IEC100 周年記念の小冊子用原稿
1979 年に開催された IEC TC10 東京会議について

IEC/TC10 国内委員会
委員長 土江 基夫

日本での TC10 の活動が転記を迎えたのが、1979 年（昭和 54 年）の東京会議である。
当時は現在活動を行っている TC10 のほかに炭化水素系絶縁油に関して検討する SC-10A
と非炭化水素絶縁油を扱う SC-10B も存在していた。

これら 3 つの委員会が 1979 年の 10 月 21 日から 26 日までの 6 日間、東京で開催された。

【出席国と出席者】

東京会議に出席した国と出席者は表 1 に示す通りである。それまで、1 名程度しか出席
していなかった日本から 10 名の出席があり、積極的に取組む姿勢がうかがわれる。

表 1 東京会議の出席国と出席者

出席者の国名	TC10	SC10A	SC10B
アメリカ	3	2	2
イギリス	2	4	3
イタリア	2	2	2
オーストリア	1	1	—
オランダ	1	1	1
カナダ	1	1	1
スイス	1	1	—
スウェーデン	1	1	1
西ドイツ	4	4	1
フランス	4	4	4
ベルギー	2	2	2
ノルウェー	1	1	1
日本	4	4	4
合計	27	28	22

注) 各委員会への日本からの出席者の合計は 12 名となるが、
重複があるので、総出席者数は 10 名である。

【主要な検討議題】

主要な議題を表 1 に示すが、TC10 のタイトルがそれまでの「Liquids and gaseous
dielectrics (液体および気体誘電体)」から現在の「Fluids for electrotechnical applications

(電気機器に用いる流体)」に変わったのが東京会議である。

表 2 東京会議での検討議題

検討委員会	検討議題
TC10	タービン油の規格および使用油の管理
SC10A	油入変圧器および油入遮断器用鉱油の品質規格
	パラフィン系絶縁油
	水分試験法
	課電条件による試験
	酸化安定性試験
	合成絶縁油
SC10B	シリコーン油の規格および試験法
	エステル油の規格および試験法

このなかで、「油入変圧器および油入遮断器用鉱油の品質規格（IEC296）」では、酸化防止剤添加油と無添加油との区別が検討され、添加油は例えば IEC 296 Class I A のように A を最後に付することが採択された。

シリコーン油では、日本およびイギリスから提案された原案を基本として、当面ジメチルポリシロキサンを規格化することになった。東京会議では試験法のみが審議された。

【東京会議以降の取組み】

1981 年以降、出席人数も 4～5 名、場合によってはそれ以上を数え、積極的な対応がみられた。また、シリコーン油の燃焼性試験では、日本から提案した方法が採択された。

なお、以上は 1979 年の IEC TC10 東京会議に出席された日本石油の増永緑氏執筆の「日石レビュー・第 22 巻 第 2 号（1980 年 4 月）「絶縁油の IEC 規格と IEC 東京会議について」を参考に記載しました。